

「移行支援施設B型との連携した現場実習」の指導事例

対象生徒の実態(高等部3年生 女子生徒G)

- 発語は「トイレ」のみであるが、簡単な言語指示が理解できる。
- CDが好きで、休憩時間は「CDを貸してください」カードを利用して楽しむことができる。
- 指示を確認すれば一人で教室移動や短時間の軽作業ができる。
- 行事前などの特別時間割では、大きな声を出し、落ち着かないことがある。

学校生活での課題

- 活動内容や場所、時間を理解し、落ち着いて活動に取り組む。
- カード等を利用し、他者への主体的な発信を増やす。

必要な支援

- 作業内容に見通しがもてるよう、スケジュール表を作成する。
- 意思表示のためのコミュニケーションツールを作成する。

事前指導

- ① 学校の行動記録等から、生徒Gが現場実習で行いやすい作業内容を考え、事前に練習する。
- ② 一定の補助があればできそうな仕事内容の補助具を使用する。

<練習した作業内容>

- 封入作業
- ラベル貼り作業
- 広報誌折り作業

施設との連携(打合せの内容)

施設見学・面接を行って

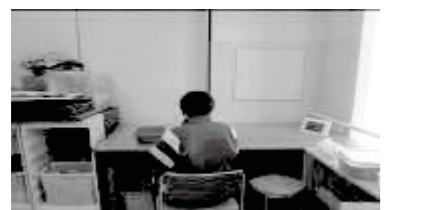
- ① 作業内容の聞き取り
- ② 道具や場所の写真撮影を依頼
- ③ スケジュール表の持参確認
- ④ 補助具の持参確認
- ⑤ 作業環境の改善確認
- ⑥ 昼休み等の余暇活動の内容・場所の確認
- ⑦ コミュニケーションカードの持参確認
- ⑧ 個人用時計の持参確認

現場実習中の生徒Gの観察記録と支援の工夫・改善

広い机・多くの利用者



間仕切り・個別スペース



- 一人で落ち着いて作業ができるようになりました。

広報誌折り作業不得意

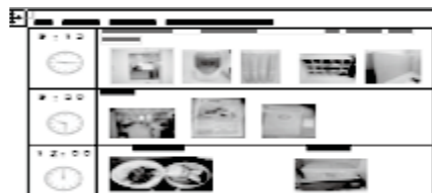


封入作業・得意

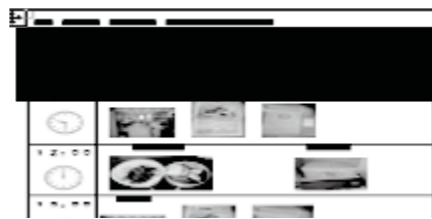


- 失敗がなく作業ができました
- 落ち着いた作業態度になり、100枚を完成することが出来ました

スケジュール表・情報多



スケジュール表終わったら隠す



- スケジュール表にしたがって作業ができました。
- 実習の最後にはいらなくなりました。

活動なし



休憩時間・CDを聞く



- 実習の円滑なスタートに役立ちました。
- 昼休みを一人で過ごせました。

まとめ

- 事前のアセスメントを活用し、生徒一人一人の能力に応じた仕事内容の選定が大切である。
- 施設との円滑な連携で、生徒が安定して力を発揮できる。
- 施設の職員が生徒に常時付き添う必要がなくなり、生徒と施設の双方に有益である。

知的障害が軽度の生徒の現場実習へ向けた指導事例

対象生徒の実態(高等部2年生 男子生徒H)

- 学習場面で余所見が多く、集中力が低い。
- 持ち物の置き忘れなどが多く、不注意に見える。
- 教師との言葉のやり取りが多いが、口頭で注意しても同じ失敗を繰り返す。



実施したアセスメント等と結果

TTAPの結果

- 学校はコミュニケーション能力を高く評価している。
- 作業速度はあまり早くない。
- 長い言葉での指示を理解するのが苦手である。
- 援助を求めることが苦手である。

WAIS-Ⅲの結果

- 言語性と動作性も境界線域である。
- 情報処理速度が低い。

生徒Hは、IQは境界線域であっても、言葉のみの指示を理解することが困難であり、作業能力があまり早くないために、集中することも困難であると再認識した。

アセスメントから分かった必要な支援

- 生徒Hへの肯定的な評価
成功したこと伝え、更に良くなるための方法を伝える。
- 手順書、チェック表の活用
具体物を活用することで、課題を見て分かるようにする。
成功体験を重ねて、自己評価・他者評価による自尊感情の高める。
- 教室環境の整備
作業速度がゆっくりであるため、学習環境を構造化することで力が発揮できる。
集中して取り組むために、個別に作業スペースを確保する。

自閉症の障害特性に応じた指導内容・方法の工夫及び配慮点

<言語環境>

- 説明や指示及びコミュニケーションは、短文でやり取りを行う。
- 視覚的な支援を活用し、主体的に指示や活動内容が理解できるように支援する。

<ニーズ調査>

- 実習先と連携を図り、実習を想定した作業内容を授業に取り入れ、活動の見通しと自信を高める。
- 実習先と必要な支援について引継ぎを行い、実習現場に即した支援の形へ修正を行う。また、実習先にも必要な支援の提案を行う。

<教材>

- 手順書は分かりやすくするため、ファイルの裏表紙に「目標」、「指示」等を短文で明記した。
- 作業内容の仕様書と組み合わせることで、注意が他へそれないように配慮した。



<教室環境>

- 個別の作業スペースを設けた。

生徒Hの変化

肯定的な評価を伝えることと手順表等の支援ツールを活用することで、成功体験を重ねることができ、表情や発言からは自信の高まりが感じられた。
また、チェック表を活用することが習慣化し、忘れ物にも改善が見られた。

- 段階的に移行支援施設B型での現場実習を行い、自信を深めた。

今年度の研究で分かったこと

- 生徒の能力等と周囲の評価の大きな差が生徒に与える影響
- 高等部における知的障害が軽度の自閉症の生徒の指導課題
- アセスメントを組み合わせた生徒の実態把握の重要性

今後の課題

- 現場実習先との生徒の実態と課題の共通理解

学校間の引継ぎに関する事例

小・中学部設置校から高等部単独校への引継ぐ取組

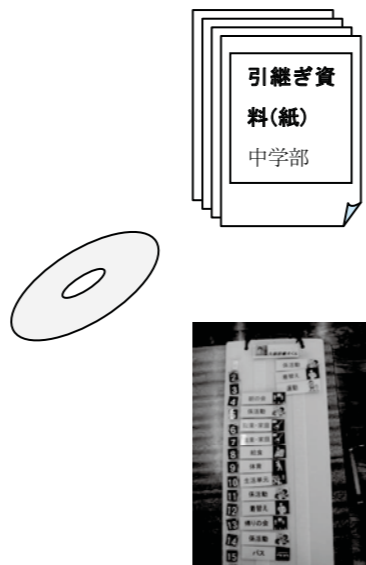
ねらい

- ・ 中学部の生徒一人一人の障害特性に応じた実践を丁寧に高等部に引き継ぐ。
- ・ 生徒一人一人の実態把握のための資料を提供し、円滑な移行を行う。

内容

1 引継ぎ資料の充実

- (1) 文書資料
日常生活の技能、学習の様子など、全14項目
- (2) 映像資料
日常生活、個別学習の様子など（DVD）
- (3) 教材
国語・数学等で活用した個別学習教材を、生徒一人につき3点以上。
- (4) 個別のスケジュール表
- (5) コミュニケーションツール



2 教員間の情報交換の充実

- (1) 高等部作業学習への入学前の参加体験
- (2) 教員の授業参観
高等部教員の個別学習の見学

高等部単独校の教員へのアンケートから

- 映像資料で中学部の様子が良くわかった。
- 教材を引き継いだことで、4月からの移行期に生徒が落ち着いていた。



成果

- 学校間で教材を引き継ぐと、生徒が入学当初を落ち着いて過ごせる。
- 映像資料は、教材の使用方法等を引き継ぐのに有効であった。

課題

- 高等部の教育課程で、予定表や全て教材を活用することが困難であり、高等部で必要な引継ぎ資料をまとめる必要がある。

高等部単独校と小・中学部設置校の引継ぎ充実に向けた取組

高等部から中学部に有用な引継ぎ内容を提案するために

検討課題

- 入学時の生徒一人一人の円滑な学校生活の移行に有効なものは何か
- 中学部で使用してきた教材等を活用して、高等部での指導方法の工夫、指導内容の精選にどのように生かすか

高等部の取組課題

- 校内の学習環境の整備を進める。
- 生徒一人一人のコミュニケーション支援ツールを引き継ぐ。

内容

- 教員交流
 - ・ 相互の授業見学、指導体験
 - ・ レポート作成し、活用した意見交換会
- 二校合同連絡会
 - ・ 学校間で引き継ぐべきことの検討
- 生徒一人一人の引継ぎ資料の検討
 - ・ 実態把握
 - ・ 授業や個別の教材



- 自閉症の生徒の円滑な移行のために、必要な指導内容・方法の共通理解が図れた。

今後の課題と予定する取組

- 二校の教育実践を踏まえた、指導内容の系統化
 - 例) 作業学習の指導内容・方法についての系統性
同一の作業日誌の活用 等
- 校内シンボルマークの統一
 - 両校共通の授業では、同じシンボルマークを使って時間割（予定）確認し、授業内容が異なるものについては新しいマークを使用することで、高等部でも授業のイメージがもてるようにする
 - 特別教室等の表示（シンボルマーク）の統一
- 個別のコミュニケーション支援ツール・スケジュールの確実な引継ぎ
- 中学部で生徒自身が使えるコミュニケーション支援ツールを指導する。

これまで作成・配布した自閉症教育推進の関係資料

平成25年12月 東京都教育庁 指導部

名称・内容	発行	表紙
1 自閉症の児童・生徒のための教育課程の編成について 新たな指導の形態として「社会性の学習」の創設 【内 容】知的障害養護学校での自閉症の障害特性に配慮した教育課程に向けた新たな指導形態「社会性の学習」の創設について。 (2,000部 32ページ A4判)	平成18年3月	
2 自閉症の障害特性に応じた指導の充実 【内 容】自閉症の障害特性や行動特徴、自閉症の児童・生徒の理解と基本的な対応方法等について。全都立特別支援学校向けの啓発資料。 (9,000部 4ページ A4判)	平成18年8月	
3 自閉症の障害特性に応じた教育のガイドライン 自閉症の教育課程の編成と「社会性の学習」 【内 容】自閉症の障害特性に応じた教育の充実を図るための自閉症教育のガイドラインと平成18年度から新たな指導の形態として試行的に行っている「社会性の学習」の実践事例について。 (2,000部 72ページ A4判 カラー印刷)	平成19年3月	
4 自閉症の教育課程の充実 【内 容】自閉症の教育課程の充実を図るための「社会性の学習」、「認知の学習」、「般化の学習」の指導内容や方法についての理論と指導事例等について。自閉症の児童・生徒で編成した学級における学級経営の基本的事項について。(2,000部 52ページ A4判)	平成20年3月	
5 自閉症の児童・生徒で編成した学級における指導の充実 【内 容】自閉症の児童・生徒で編成した学級における児童・生徒に分かりやすい学習環境について。「構造化」の実践例や、校内表示や教室表示等の絵カード図案集を含む。(2,000部 32ページ A4判)	平成21年3月	
6 東京都立特別支援学校の自閉症学級のための学習環境の構造化について 【内 容】小学部及び中学部第1学年の自閉症の児童・生徒が新たな環境の中で学習を始めるにあたり、教室環境を整備するために必要な施設・設備について。(2,000部 8ページ A4判)	平成22年2月	
7 小学校特別支援学級における自閉症の児童の指導の工夫 【内 容】小学校の特別支援学級において、自閉症の児童に配慮した指導計画を作成するための、自閉症の児童の障害特性の理解に関する理論編と実践編について。(2,600部 52ページ A4判)	平成23年3月	
8 東京都立知的障害特別支援学校小学部自閉症学級指導書 社会性の学習 【内 容】自閉症の教育課程の充実を図るため、「社会性の学習」目標や内容等の理論編と小学部の指導内容や方法等の実践編について。 (2,000部 94ページ A4判)	平成23年3月	
9 東京都立知的障害特別支援学校中学部自閉症学級指導書 社会性の学習 【内 容】中学部段階の自閉症の生徒の直面する課題解決のため、「社会性の学習」の内容等の理論編と指導内容や方法等の実践編について。 (2,000部 86ページ A4判)	平成24年3月	

平成25年度自閉症教育充実事業

都立特別支援学校自閉症教育充実事業研究指定校

研究指定校	
東京都立羽村特別支援学校	東京都立葛飾特別支援学校
東京都立港特別支援学校	東京都立白鷺特別支援学校

都立特別支援学校自閉症教育充実検討委員会

所属	職名	氏名	備考
宇都宮大学	教授	梅永 雄二	専門委員
明星大学	教授	島田 博祐	専門委員

東京都立葛飾特別支援学校	校長	葛岡 裕	委員長
東京都立羽村特別支援学校	校長	杉本 久吉	委員
東京都立港特別支援学校	校長	村山 孝	委員
東京都立白鷺特別支援学校	校長	田邊 陽一郎	委員
東京都立葛飾特別支援学校	主幹教諭	富沢 聖子	委員
東京都立羽村特別支援学校	主任教諭	井上 寛信	委員
東京都立港特別支援学校	教諭	市川 玲子	委員
東京都立白鷺特別支援学校	教諭	綿引 清勝	委員

※東京都教育委員会では次の者が担当した。

指導部義務教育特別支援教育指導課長	安間 英潮
指導部特別支援学校教育担当課長	山本 優
指導部主任指導主事（特別支援教育担当）	市川 裕二
指導部義務教育特別支援教育指導課統括指導主事	島添 聡
指導部義務教育特別支援教育指導課統括指導主事	川口 真澄
指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	原島 広樹

都立知的障害特別支援学校における自閉症教育充実事業
報告書
「自立と社会参加に向けた
高等部における自閉症教育の充実」

東京都教育委員会印刷物登録 平成25年度 第195号
発行日 平成26年3月
編集・発行 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03-5320-6847

